



【船】1994年  
陶土、釉薬  
267×260×530mm



### 西川 智之 Satoshi Nishikawa

1974年～ / 滋賀県在住

西川さんの粘土造形のユニークなところは、小さなひとつのカタチがくり返し増殖していき、大きなひとつの集合体を形作るという方法にあります。作りはじめた頃は、人や魚や果物などを面白い形でひとつだけ作っていたのですが、たくさんの実がぎっしり集まった「パイナップル」の作品が褒められたのをきっかけに、彼独自のこのような造形スタイルが始まったのです。「帆船」を形作るのは水兵さんたちの集合体。「りんご」を形作るのは、なぜかウサギたちの集合体です。

彼の暮らしていた施設は、日本でも最も早い時期に滋賀県に開設された障害のある児童等の施設です。そこでは職業訓練として、傘立てや花瓶などのような大きな粘土造形の技術指導にも積極的に取り組んでいました。そのため、彼も小さなカタチをどんどん積み上げていって、

大きな造形へと移行していく楽しさを自然につかんでいったのでしょう。彼は粘土に向かうと大変な集中力を発揮し、一度も休憩することなく約3～4時間で一気に大きな作品を完成させていました。小さなひとつの形が元になり、どんどん増えて大きなひとつのイメージを形作る面白さ。納得いくところまで、すき間を埋め尽くす。その行為そのものが、彼の心の中の何かを充足させ満たしているのかもしれませんが、作品からはそんな彼の心の波動が、見る者にも伝わってきます。淡い色の釉薬をかけたものや、そのまま土の色を活かしたものなど、施設の担当職員のコまやかな配慮が、造形の特長を上手く活かしています。

【うさぎのりんご】1993年  
陶土、釉薬  
148×187×178mm



西川 智之



【船】1994年  
陶土、自然釉  
254×238×356mm